

平成 30 年度 高槻中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

■めざす学校像

次代を担う人物を確かに育成する最優の進学校を目指す

■教育方針

確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養う

2 中期的目標

【中期的目標】、【課題を踏まえた実践計画】

① SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)としての教育活動およびコース制の充実

指定5年目のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)は「先端学力知とグローバルマインドセットを備えた生命科学系リーダーの育成」を、指定3年目のSGH(スーパーグローバルハイスクール)は「医科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成」を目指し、本校の教育内容の特色として、より高度で質の高い教育活動の展開を図る。また、コース制は導入5年目となり、中3以降の学年が、GS(グローバルサイエンス)、GA(グローバルアドバンスト)、GL(グローバルリーダー)のカリキュラムに則った学修を進めている。今後はよりコースの特性に応じた教育プログラムの充実を図っていく。

②School Mission「Developing Future Leaders With A Global Mindset」の実現を図る教育活動の展開

本校のミッション実現に向け、卓越した語学力や国際的な視野を持って、世界を舞台に活躍できる次世代のリーダーを育成するための教育活動をより充実させる。

③高大連携の教育プログラムの充実

本校は、大阪医科薬科大学との法人統合、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)の指定というメリットを活かし、より多様で質の高い高大連携の教育活動、教育プログラムの充実を図っていく。

④「探究型」学習の充実と学力の三要素の育成

本校は、特色教育の一展開として「探究型」学習に取り組んでいる。思考力を重視した問題解決的な学びは、中教審の答申、それを踏まえた2020年の大学入試改革、次期学習指導要領においてもキーワードとなっている。そこでは、新しい時代に求められる資質・能力の三つの柱として【知識・技能】、【思考力・判断力・表現力】、【学びに向かう力・メタ認知】が挙げられている。自己評価では、思考力を重視した問題解決的な学習を行っているという項目の自己評価が71%となっており、各教科で、知識の習得(インプット)だけではなく、考察と仮説の構築、その検証を繰り返す体系的な学びを促し、それを運用(アウトプット)する力を体得させるような学習を、本校の教育活動全体を通じて積極的に取り入れている。また、幅広い学びの成果や活動を記録する学修ポートフォリオ『My Career Notebook』を活用し、生徒自身が振り返りや学習計画の改善、キャリアデザインできるよう指導している。さらに、2020年以降に大学入試を迎える高校1年生以下の学年では年度末に学修インタビューを行い、生徒自身が教育活動全般を振り返って省察しプレゼンテーションすることにより、主体的に学ぶ力や意欲の伸長を図っていく。

⑤高い学力が確かに身につく指導と成果の検証

進学実績の飛躍的な向上を図るため、各学年が年間計画で取り組む学力向上のための取り組みの実施状況とその成果について、節目節目で検証を行い、学校全体として実効性のある改善策を実施する。また、基礎・基本を徹底し、十分な理解度や到達度をもった上で、知識活用型の発展的な学習に取り組めるよう、特に中学段階における学習指導を徹底する。さらに、生徒の潜在能力を発揮させ、学力を十分に伸ばせるよう全校をあげて学力向上に関する具体的な取り組みを実践していく。

⑥校舎建設および将来構想

自己評価では、十分な教育を行うための施設・設備が整っているという項目の評価が改善された(項目38がH27年度50%→H28年度57%→H29年度68%)。今年度秋にはⅡ期工事が終了し、図書館・講堂・アクティブラーニング commons が完成する。さわらぎキャンパス全体の中長期的なレイアウトを視野に入れつつ、諸施設の充実と刷新を図っていく。

⑦徳育教育の充実

生徒が生命を大切に思う気持ちや社会のルールを身につけることができるよう、年間指導計画に基づき道徳教育を継続的に行っている。共学二年目を迎え、服装、挨拶、清掃活動など生活の基本を大切にしている指導を徹底しながら、徳育教育の充実を図っていききたい。清掃活動が行き届いているという項目の評価が大きく改善されたので(項目40がH27年度48%→H28年度48%→H29年度63%)、今年度も継続して取り組んでいきたい。平和学習を目的とした中学修学旅行、ボランティア活動の奨励、道徳教育の充実、人権教育の推進等とともに、学校の様々な教育活動を通して、心豊かな人間を育成していききたい。

⑧社会貢献活動としてのボランティアの推進

平成28年度よりボランティア活動支援センターを校務分掌の中に位置づけ、ボランティア活動を推進している。本校のミッション実現のため、多様で豊かな人間関係にふれる体験を教育活動の中に位置づけ、リーダーが持つべき他者を思いやる心、奉仕の心、課題解決力を育みたい。社会貢献活動を中心に行うボランティア委員会と、生徒募集イベントにおいてボランティア活動を行っている「T-BEST」の活動が、世界や人類の福祉に貢献できる人物の育成に繋がることを期待している。

⑨指導力および資質の向上を図る教員研修の実施

本校の特色ある教育の実践には、教員の指導力が必要不可欠である。教科指導や教育的課題についての学校内外での研修をより充実させ、日常的なOJTの活性化を図っていききたい。大学入試改革、学習指導要領の改定を目前にひかえ、今年度も深い学びを促すアクティブラーニングを推進していくための研修と、カリキュラムマネジメントに関する研修を実施し、教育活動の深化、連関性、協働性を高める取り組みを実践していく。

⑩ICT利活用教育の推進

今後ますます進化を遂げるであろう高度情報化社会を生き抜くために必要なICTスキルを養うため、メディアリテラシーを含めたICT教育を充実させていく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年実施分]	学校協議会からの意見
【総論】	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
◎SSH、SGH、GACの教育活動 およびコース制の充実	(1) SSHの教育活動の充実 (2) SGHに準じた教育活動の充実 (3) コース制に伴う教育活動の充実 (4) 中学の教育内容の充実と進路意識の向上 (5) コース選択に関するガイダンスの実施	(1) 課題研究やその成果の発表、SS セミナー、サイエンスキャンプ、科学技術コンテストへの参加 (2) 課題研究やその成果の発表、グローバルセミナー、Stanford 大学オンラインコース、海外フィールドワーク (パラオ) (3) 探究活動の充実、コース別研修の企画・実施 (4) ア. 基礎基本の修得と定着の徹底 イ. キャリアデザイン進路講演会「ようこそ先輩」(中1、中2)、選択式進路講演会(中3) (5) ア. コース説明会(生徒対象、保護者対象) イ. 中学の保護者対象学年集会において説明	(1・2) 各教育プログラムの実施後の生徒アンケート (3) 高1、高2生の項目2が80%、項目4が70% (H29年度項目2が高1は66%、高2は75%、項目4が高1は55%、高2は59%) (4) ア. 中学生の項目4の肯定的評価が90% (H29年度87%) イ. 中学生の項目20の肯定的評価が70% (H29年度65%) (5) ア. 中2・中3で各1回 イ. 中学保護者の項目1の肯定的評価が90% (H29年度88%)	
◎School Mission の実現を図る教育活動の展開	「Global Mindset」を持った次世代のリーダーを養うための教育活動の実施	ア. 次世代リーダー養成プログラム(英国研修、米国研修)の実施とプログラムの充実 イ. ターム留学(カナダ、アメリカに12月末～3月上旬まで留学) ウ. 特色教育としての英語教育の充実、使える英語を身につけるための英会話の授業(オンライン英会話含む) エ. 英語4技能を測定するGTEC受検 オ. 言語活動の充実 カ. International Young Leaders Advancement Programme (GAコース) キ. コミュニケーション研修(中1) ク. グローバルセミナー ケ. 台湾研修(GAコース) コ. 海外の中等教育学校(延平高級中学:台湾、台南第一高級中学、ミンゼンティエ高校:パラオ)との提携と交流行事 サ. SSサイエンスツアー(GSコース) (タイ王国ナワミン第2高校訪問、現地高校生とのガジャマンガラ工科大学での実習) シ. 海外フィールドワーク(GAコース:パラオ) ス. GLコースのキャリア教育の企画 セ. 次代を担う人物に求められる資質の教育活動を通しての具現化	・各プログラムの実施 ・自己評価において項目23「海外に目を開くことや次世代の世界を担う人物の育成に役立つような取り組みが行われている」の肯定的評価が85% (H29年度79%)	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">③ 高大連携の教育プログラムの充実</p>	<p>高大連携の教育プログラムの開発</p>	<p>ア. 大阪医科大学…SSH事業への支援、SGH事業への支援、基礎医学講座、医学部実習(メディカルサイエンストレーニング)、最先端医学教室 イ. 大阪薬科大学…サマーサイエンスプログラム、基礎薬学講座 ウ. 京都大学…SSH、SGHの活動における連携 エ. 大阪大学…SSH、SGHの活動における連携、公開講座への参加(高2)、グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)との共同研究 オ. 大阪工業大学…SSHの活動における連携 カ. 東京大学…SSH事業における研究室との連携 キ. 大阪市立大学…博士課程の学生による毎週の課題研究 ク. 京都工芸繊維大学…課題研究指導、タイサイエンスツアー、タイ高校との研究協力 ケ. SSH事業での大学研究室訪問 コ. GAコースにおける海外大学との交流プログラム a) スタンフォード大学国際異文化教育プログラム b) ケンブリッジ大学学生とのリーダーシップ研修 c) 台湾研修における国立台湾大学、台北医学大学での研修 セ. GSコースにおける海外大学との交流プログラム a) 海外サイエンスツアーにおけるガジャマンガラ工科大学での研修 b) 台湾研修における国立交通大学、台北医学大学での研修</p>	<p>・各連携事業の実施 ・高1、高2生の項目22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていていると思う」の肯定的評価が75%。 (H29度高1が57%、高2が70%)</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">④ 「探究型」学習の充実と 資質・能力の三つの柱の育成</p>	<p>(1) 高校生の「探究型」学習の充実と中学生段階での素地作り (2) 資質・能力の三つの柱の育成</p>	<p>ア. GSコースにおけるSS課題研究 イ. GAコースにおけるグローバル課題研究 ウ. GLコースにおけるクリティカルシンキング エ. 中学卒業論文 オ. 中1総合学習で行う学びのリテラシー カ. 中2総合学習で行う課題解決型学習 キ. 各教科における言語活動(プレゼンテーション、グループ発表、ディベート)の実施 ク. 学修ポートフォリオ『My Career Notebook』の記入指導と中1、中2、高1でのe-ポートフォリオ導入 ケ. 学修インタビュー(中学全学年、高校1年)</p>	<p>・各教育プログラムの実施 ・自己評価において項目22「現代的な課題やグローバル 이슈をアツクった教育活動が行われている」の肯定的評価が75% (H29年度70%)</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑤ 高い学力が確かに身につく指導と成果の検証</p>	<p>到達目標 (A) 難関国立10大学合格者130名 (B) 国公立医学部10大 阪医大合格者40名 (C) 中学卒業時の英語力50%が英検2級</p>	<p>(1) 進学実績の飛躍的な向上を図るための取り組み ア. 各学年が取り組む学力向上策 イ. 模試結果検討会議の実施 ウ. 各教科に担当者を2名以上おき、京大合格者を増やすための取り組みを実施する (2) 中学段階における学習指導の徹底 ア. セルフマネージメントプランナーを積極的に活用し学習習慣の向上を図る。 イ. 家庭学習時間2時間以上を徹底する。 (3) 進路指導部主導による学力向上 ア. 模試結果のフィードバックと模試ノートを使った復習。模試における目標の明確化。 (4) 学習指導部主導による学力向上 ア. 日々の学習での基礎基本の徹底 イ. 好ましい学習習慣を身につけるための指導 (5) オンライン教育の有効活用 (6) 大学入試対策放課後講座(アフタースクールアカデミック(AA)講座)の更なる充実と受験対策の強化 (7) 進路意識を向上させるキャリア教育の充実 (8) 高3三学期の受験指導の強化</p>	<p>(1) 各学年の学習到達度の状況と学力向上策の成果について、学期毎に検証する (2) 中学生の評価において項目18「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の肯定的評価が75% 項目20「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の肯定的評価が80% (H29年度項目18が75%、項目20が65%) 中学卒業時の英検2級合格率50% (3)(4) 高校生の評価において項目20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が75%(H29年度66%) (5) 中3～高2で実施 (6) 高2 高3で実施 (7) 中1、中2、高1で講演会を年1回実施 (8) 二次対策講座の組織的な開設</p>	

⑥校舎建設 および 将来構想	校舎建築の推進	新本館の建設およびさわらぎキャンパスの整備構想	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価において項目39「施設・設備の拡充は、長期的見通しに立ち計画されている」の肯定的評価が75% (H29年度68%) 	
⑦徳育教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生活の基本を大切にす指導の徹底 (2) 平和学習を目的とした修学旅行の実施 (3) 道徳教育の充実 (4) 人権教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生活の基本を大切にす指導の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ア. 服装 ← 「身だしなみ週間」の設定 イ. 挨拶 ウ. 清掃活動 ← 毎日清掃指導 + 週2回の全校清掃の実施 (2) 平和学習を目的とした修学旅行 (中3) (3) 中学3年間を通した系統だった道徳教育 (4) 年間計画に基づく人権教育 <ul style="list-style-type: none"> ア. 每学期1回人権LHRの実施 [各学年のテーマ] 中1: 他者を理解し、尊重する心を持つ 中2: 心身に障がいのある人々の人権を考える 中3: 「沖縄」を通して、平和と人権問題について考える 高1: 民族問題、人権問題について理解を深める 高2: 在日外国人問題を中心とした人権問題 高3: 生徒の人生や進路と人権問題 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の評価において項目 中学11 高校10「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」の肯定的評価が中学生・高校生ともに75% (H29年度中学75%、高校53%) 自己評価において項目40「清掃活動が行き届いている」の肯定的評価が70% (H29年度63%) (2) 系統だった平和学習の実施 (3) 中学生の評価において項目26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が80% (H29年度77%)。 (4) 高校生の評価において項目26の肯定的評価が70% (H29年度63%) 	
⑧ボランティアの推進	ボランティア活動を行うための体制作りと活動支援および活動内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> (1) ボランティア活動支援センターの体制確立 (2) ボランティア委員会(生徒の組織)の校外・校内における社会貢献活動 <ul style="list-style-type: none"> ア. 日本青年赤十字との連携 イ. 大阪医科大学との連携 ウ. インターアクトとの連携 (地域連携) エ. 校内・校外企画 (大阪マラソンボランティア等) (3) 生徒募集イベントにおける「T-BEST」メンバーのボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 年度末報告 (2) 35名による活動 <ul style="list-style-type: none"> ア. 年16回 イ. 年15時間 ウ. 年5回 エ. 年5回 (3) 計4回のイベントに40名が参加 	
⑨指導力および資質の向上を図る教員研修の実施	教員の指導力および資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> (1) 研究授業の実施 (年2回) (2) アクティブラーニング研修 (全教員 + 各教科の推進メンバーを対象としたワークショップ) (3) 公開研究会の実施 (4) 学びあい週間の活性化 (授業見学とレポート提出の義務化) (5) 英語科教育顧問による研修 (6) 国語科教育顧問による研修 (7) 教員向け人権研修会 (8) いじめ防止教員研修会 (9) 5年経験者研修 (10) 新人研修 	<ul style="list-style-type: none"> (1~2) 自己評価において項目44「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある」の肯定的評価が75% (H29年度67%) (3) 年1回 (4) 年1回 (5) 年3回 (6) 年3回 (7) 年1回 (8) 年1回 (9) 年間を通じて4項目実施 (10) 年間を通じて全15回 自己評価において項目43「校内研修は、教育実践に役立つような内容になっている」の肯定的評価が60% (H29年度44%) 	
⑩ICT利活用教育の推進	BYODによるICT教育の充実	ICT利活用教育推進委員会を中心としたICT利活用教育の推進・環境整備・指導体制の構築を図る <ul style="list-style-type: none"> ア. メディアリテラシーを含めた教育体制の構築 イ. 学習用デバイスの使用に関するルールの改正 ウ. 校内環境の整備、システムの構築 エ. ICT利活用教育推進委員会とAL推進チームとの共同による教員研修、生徒支援、広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> 推進委員、中1学年団を対象とした教員研修の実施 教員、生徒のICT利活用を支援する体制の確立 	